

ひと・仕事

初の個展を開催した日本画家

堀江 葉さん



「動物園
や水族館で
動物たちを

ずっと見てみると、悲しみや痛みを感じて
いるんじゃないかなと思う瞬間がありま
す。それを絵の中でよみがえらせたかった」
タイトルが美しい。夢見るようなワニの
顔をアップで描く。「あの音を聴くよう
に」。動かない鳥として妙な人気のあるハ
シビロコウが、見る者を眼光鋭くにらみ返
す「おまえに話しつづけた」。言葉と画像
が響き合い、不思議な幻想をかもしだす。
卒業を控えた昨年、体調を崩し絵筆が執
れなかった。「もう描けないのでは」とま
で苦しんだだけに、制作への思いは深い。
「自分の羽根で機を織るような気持ちで描
いていけたらと思います」 (三品信)

今春多摩美術大を卒業した新進日本画家の堀江葉さん(ニ)東京都在住の初の個展が先ごろ、都内のギャラリー「加島美術」で開かれた。在学中から福井や京都の美術展で入選した力量の持ち主。加島美術が独自の観点で現代作家を紹介する企画の、初回での登場だ。

展示したのは、二〇一〇年から今年までに制作した十九点。鳥やキリンなど「子ども
のころから好き」という生き物たちが主な
題材だ。いずれもヒゲの一筋や皮膚の質感

まで丁寧に描きこんだリアルさに支えられて画面の中で確かに息づいている。

生き物たちをリアルに描く